

獨協大学国際教養学部言語文化学科所属 専任教員2020年度研究業績一覧

(2020年4月～2021年3月までに一般に公開された各専任教員の研究業績の一覧)

明田川聡士

著書（共著）

- ・『2019年台湾文學年鑑』蘇碩斌編（「日本對台灣文學研究概述」、台湾・国立台湾文学館、2020年12月、112～115頁）

論文（単著）

- ・「戦争記憶與想像—論李喬小説中太平洋戦争敘事與反戦書寫」（『台北大學中文學報』第29期、台湾・国立台北大学、2021年3月、273～314頁）
- ・「台湾文学における戦争記憶の継承—呉明益『眠りの航路』から『自転車泥棒』へ」（『マテシス・ユニウエルサリス』第22巻第2号、獨協大学国際教養学部、2021年3月、一～三五頁）

インタビュー

- ・「這些書改變了我對台灣的認識」（「OPENBOOK閱讀誌」、2020年7月13日、<https://www.openbook.org.tw/article/p-63500>）

浅山 佳郎

その他（注釈・共著）

- ・「羅山隨筆抄訓積稿（九）」瀧康秀・長尾直茂・永吉徳夫・比留間健一（共同研究につき本人担当部分抽出不可能）（『上智大学国文学科紀要』第36号、上智大学国文学科、2021年3月、33～118頁）

安間 一雄

論文（単著）

- ・“Willingness to participate: a hidden third dimension in target language development.” [言語活動参加意欲：目標言語発達に関わる第3の軸]（ASTE Newsletter, 68, pp.52-59. <https://www.bun-eido.co.jp/aste/aste68.pdf>, 2020年4月）
- ・“Partial scoring of reordering tasks revisited: Linearity Matrix by Excel.” (Proceedings of 2020 IEEE 3rd International Conference on

Information and Computer Technologies [ICICT], pp.1-6. DOI: 10.1109/ICICT50521.2020.00008. <https://ieeexplore.ieee.org/document/9092126>, <https://conferences.computer.org/icict/2020/pdfs/ICICT2020-sQZ4BHZN9WMCBMwB1asUZ/728300a001/728300a001.pdf>, 2020年6月)

- ・「英語学概論の評価と課題」[Evaluation and problems in 'Introduction to English Linguistics'] (『英語学論説資料』第52巻第1分冊、論説資料保存会、92～99頁、2020年6月)

浦部 浩之

著書 (共編著)

- ・『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』畑恵子・浦部浩之共編著 (新評論、2021年2月、全328頁)

論文 (単著)

- ・「権威主義体制下での選挙監視活動と2015年ベラルーシ大統領選挙—OSCE 選挙監視団への参加もふまえて—」(『マテシス・ウニヴェルサリス』第22巻第1号、獨協大学国際教養学部、2020年10月、1～25頁)
- ・「多元的な選挙監視活動と2017年コソボ解散総選挙—NGOによる選挙監視活動への参加もふまえて—」(『マテシス・ウニヴェルサリス』第22巻第2号、獨協大学国際教養学部、1～32頁、2021年3月)

事典 (共著)

- ・『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集委員会編 (「自然災害と社会」4～5頁、「汚職」556～557頁、「米国との関係」558～559頁、「チリ共和国」670頁を分担執筆、丸善出版、2021年1月)

口頭発表

- ・「OSCEの選挙監視活動が果たす役割—比較の視点から」(グローバル・ガバナンス学会 第13回研究大会、2020年11月)

岡村 圭子

論文 (単著)

- ・「社会的」であることの意義を再考する—高齢者福祉施設「杜の家やしお」の取り組みから— (『地域総合研究』第14号、獨協大学地域総合研究所、2021年3月)

講演

- ・企画展講座「団地が育てたもの」（草加歴史民俗資料館「草加×東洋一のマンモスだんち展」、2020年9月20日）

社会的活動

- ・草加八潮消防組合消防力の整備指針・消防施設整備計画審議会 会長
- ・八潮市多文化共生推進プラン策定委員会 委員長
- ・草加市文化協会 理事

川村 肇

論文（単著）

- ・「民主主義と戦後教育を考える」（『季論21』第50号、本の泉社、2020年10月、178～194頁）

その他（単著）

- ・「日本学術会議人事介入事件—警察監視国家への道」（『前衛』第996号 [2021年1月号]、日本共産党中央委員会、2020年12月、43～59頁）

金 秀晶

<2019年度研究業績（追加）>

著書（共著）

- ・『한국어교사를 위한 한국어학 개론』（韓国語教師のための韓国語学概論）、閔賢植他13人、（「一部：韓国語学と韓国の言語文化」、사회평론아카데미 [社会評論アカデミー]、2020年3月、81～101頁）

論文（単著）

- ・「日本における大学の韓国語到達度目標設定について」（『マテシス・ユニヴェルサリス』、第21巻第2号、獨協大学国際教養学部、2020年3月、31～45頁）

口頭発表

- ・「日本における大学の韓国語到達度目標設定について」（韓国言語文化教育学会、第14次国際学術大会、沖縄、2019年1月）

高 恩淑

論文（単著）

- ・「自発的な意味を表す表現について—日本語と韓国語との比較を中心に—」（『マテシス・ユニヴェルサリス』第22巻第2号、獨協大学国際教養学部、

2021年3月、89～107頁)

口頭発表

- ・「書き言葉における『のだ』の産出を目指して—意見文に見られる『のだ』の例から—」(2020年度日本語教育学会春季大会、於：一橋大学、新型コロナウイルスの影響で中止、発表は成立、2020年5月)

小島 優生

論文 (単著)

- ・「生活指導の法化と外部委員の専門性—韓国の「学校暴力対策法」に焦点を当てて—」(『スクールコンプライアンス研究』第9号、スクールコンプライアンス学会、2021年2月、6～15頁)
- ・「韓国における学校暴力判例の争点：学校暴力予防法制定後の変化を中心に」(『獨協法学』第114号 [市川須美子先生退職記念号]、獨協大学法学会、2021年4月、75～103頁)

論文 (共著)

- ・「学校教育活動の「法化」現象に関する東アジア比較研究：—いじめ・学校暴力対策法制の展開を中心に—」小島優生・李定玟・宋峻杰・金龍・平田由紀江(『マテ시스·ウニウェルサリス』第22巻第2号、獨協大学国際教養学部、2021年3月、33～37頁)

小宮 秀陵

論文 (単著)

- ・「遣唐使 語義의 재발견과 그 함의」(『대구사학』제141집, 대구사학회)、2020年11月、1～31頁)
- ・「眞興王碑와 근대 東洋史學」(『중앙사론』제52집, 중앙대학교 중앙사학연구소、2020年12月、327～360頁)

その他 (単著)

- ・「回顧と展望：2019年の歴史学界—東アジア、朝鮮、古代—」(『史学雑誌』第129編・第5号、公益財団法人史学会、2020年5月、251～253頁)

口頭発表

- ・「眞興王碑建立の東アジア史的意義」(한중일 출토문자자료 국제 학술 워크숍 —고대 동아시아의 접경과 출토 문자 자료—, 중앙대·한국외대 HK+ <접경인문학> 연구단, ZOOM 온라인 학술대회, 2020年8月21日)

齋藤 哲

資料 (共著)

- ・「第二次沖縄民事陪審裁判—1965年秋の訴訟記録—(1)」齋藤哲訳、代表執筆者・陪審裁判を考える会 (『マテシス・ウニウエルサリス』第22巻第1号、獨協大学国際教養学部、2020年10月、141～181頁)
- ・「第二次沖縄民事陪審裁判—1965年秋の訴訟記録—(2)」齋藤哲訳、代表執筆者・陪審裁判を考える会 (『マテシス・ウニウエルサリス』第22巻第2号、獨協大学国際教養学部、2021年3月、121～164頁)

佐藤 勸治

著書 (共著)

- ・『多様性を読み解くために』 エスニック・マイノリティ研究会編 (「メキシコのジェロニモ」43～54頁、「『メスティーン化』：1932年メキシコ反中国人移民運動イラスト」69～71頁を分担執筆、東京外国語大学海外事情研究所、電子出版、2020年11月、http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/99676/1/igas_ems_05.pdf、http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/99678/1/igas_ems_07.pdf)
- ・『歴史のなかの人びと：出会い・喚起・共感』樋口映美編 (『邦人七名殺戮』の風説：トレオン中国人移民虐殺事件と日本人移民)、彩流社、2020年4月、37～51頁)

二宮 哲

論文 (単著)

- ・「{una ~ alguna} vezのいくつかの用法について—不定語の語用論的分析—」(『スペイン語学研究』第35号、東京スペイン語学研究会、2020年10月、109～122頁)

口頭発表

- ・「Unas ??(pocas) veces」(東京スペイン語学研究会、2020年11月28日)

野澤 聡

著書 (共著)

- ・『遠隔でつくる人文社会学知：2020年度前期の授業実践報告』大嶋えり子・小泉勇人・茂木謙之介 (獨協大学「科学史 I」(全学部全学年対象) 授業実

実践報告」、雷音学術出版、2020年10月、89頁)

- ・『オンライン授業の地平：2020年度の実践報告』小泉勇人・茂木謙之介・大嶋えり子(「獨協大学国際教養学部「演習(科学技術を多面的に読み解く)」(学部2-3年生) 授業実践報告」、雷音学術出版、2021年4月、81頁)
- ・『別冊アステイオン それぞれの山崎正和』公益財団法人サントリー文化財団アステイオン編集委員会(「先生との勉強会」、CCCメディアハウス、2020年12月、140~143頁)

口頭発表／講演

- ・「The Importance of Transdisciplinarity in Newton's Research: A Comment on Niccolò Guicciardini, "Recent trends in Newtonian research: a historian of mathematics' viewpoint"」(日本科学史学会第68回年会、2021年5月 [主催者からの依頼でコメンテーターとして登壇])
- ・シンポジウム「「新たなニュートン像」を越えて」(日本科学史学会第68回年会、2021年5月 [主催者からの依頼でコメンテーターとして登壇])
- ・「市民科学／オープンサイエンスについて：三澤勝衛たちの活動を意義付ける枠組みを求めて」(天文文化研究会、2021年6月)
- ・「ジェントルマンサイエンスについて：諏訪天文同好会の再評価に向けて」(天文文化研究会、2021年7月)

野原ゆかり

論文(単著)

- ・「日本社会における外国人の日本語の評価—「一般的な日本人」との関わりの中なかで—」(『日本語学』第39巻第4号、明治書院、2020年12月、104~114頁)

その他の活動

- ・埼玉県日本語教育推進会議委員、2020年7月1日~2021年3月31日

朴 鍾厚

著書(共著)

- ・『해방 전 선교사의 한국어 교육 텍스트 연구 (独立前の宣教師の韓国語教育的テキストの研究)』(서울:한국문화사 [ソウル:韓国文化社]、2020年5月)

論文(単著)

- ・「日本における韓国語教育の現状と教員の再教育問題に関する一考察」(『マテシス・ウニヴェルサリス』第22巻第1号、獨協大学国際教養学部、2020年

10月、97～119頁)

- ・「韓国語の他動的受動に関する一考察」(『韓国文化研究』別冊第3号、韓国文化学会、2020年10月、93～106頁)
- ・「日本の大学における非専攻韓国語学習者の向上させたい言語能力に関する調査分析」(『新世紀人文学論究』第5号特別記念号、新世紀人文学研究会、2021年3月、227～242頁)

研究ノート(単著)

- ・「韓国語学習用語彙における漢字の造語力に関する研究」(『マテシス・ユニウェルサリス』第22巻第2号、獨協大学国際教養学部、2021年3月、189～201頁)

教材(単著)

- ・『コツコツ韓国語文法練習帳』(博英社、2021年3月)

教材(共著)

- ・『もう初級者なんて言わせない韓国語:中級から上級編』(白帝社、2021年3月)

口頭発表

- ・韓国語の他動的受動に関する一考察(第10回韓国文化学会学術大会、2020年10月)

堀川 宏

著書(単著)

- ・『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』(ベレ出版、2021年1月)

口頭発表/講演

- ・「ギリシア神話と叙事詩」(第140回懷徳堂秋季講座:ギリシア神話を読む、2020年11月)

松岡 格

著書(共著)

- ・『多様性を読み解くために』エスニック・マイノリティ研究会編(「食文化について:彝族の例とともに考える」193～202頁を分担執筆、東京外国語大学海外事情研究所、電子出版、2020年11月、

http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/99690/1/igas_ems_19.pdf)

論文(単著)

- ・「台湾原住民社会の可視化、人的資源の流用と「蕃地」「蕃人」の編入・統合

について」(『マテシス・ウニウエルサリス』第22巻第1号、獨協大学国際教養学部、2020年10月、43～79頁)

安井 一郎

著書 (共著・分担)

- ・『小学校・中学校における安全教育』渡邊正樹・林尚示編著(「特別活動および部活動における安全教育」培風館、2020年9月、155～170頁)

著書 (編集・解題)

- ・『戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 附属校編』全3巻、金馬国晴・安井一郎・溝邊和成(クロスカルチャー出版、2020年6月)

論文 (共著・分担)

- ・「小学校の学級活動でエージェンシーを育成するための指導方法の検討—学習指導案、児童のワークシート、教師へのインタビューの活用を中心として—」林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子(『教育実践学研究』第24巻、教育実践学会、2021年3月、71～82頁)
- ・「特別活動の学級活動(1)でOECD準拠型コンピテンシーを育成するための指導方法の導入と検証—Think-Pair-ShareとOne-minute Paperの導入効果に着目して—」安井一郎・林尚示・鈴木樹・眞壁玲子(『マテシス・ウニウエルサリス』第22巻第1号、獨協大学国際教養学部、2020年10月、81～96頁)
- ・「特別活動でOECD準拠型コンピテンシーを育成するための指導方法の開発に関する成果と課題」林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子(『東京学芸大学紀要 総合教育科学系』第72巻、2021年2月、85～100頁)

口頭発表 (共同研究発表)

- ・「小学校の学級活動でエージェンシーを育成するための指導方法の検討—学習指導案、児童のワークシート、教師へのインタビューの活用を中心として—」林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子(日本特別活動学会第29回大会自由研究発表、就実大学、Web会議、12月12日)

<2019年度研究業績 (追加) >

論文 (共著)

- ・「The OECD Learning Compass 2030 と学級活動との対応に着目した特別活動でOECD準拠型コンピテンシーを育成するための指導方法」林尚示・安井一郎・鈴木樹・眞壁玲子(『教育実践学研究』第23巻、教育実践学会、2020年3月、17～26頁)

山本 英政

エッセイ (単著)

- ・「なぜ、ハワイ②」(『思想の科学研究会年報』第2号、思想の科学研究会、2021年3月、80～87頁)

依田 珠江

研究報告 (共著)

- ・「運動習慣のない女子大学生のパワーヨガ時の心拍数の変化」依田珠江・齋藤有夏(『マテシス・ウニウエルサリス』第22巻第1号、獨協大学国際教養学部、2020年10月、183～190頁)

林 永強

口頭発表

- ・“Rereading Nishida Kitarō as a New Confucian: With a Focus on His Early Moral Philosophy.”(「東アジアにおける哲学の生成と発展—間文化の視点から」第六回共同研究会、国際日本文化研究センター、2021年2月6～7日、ウェビナー)
- ・「日常とは何か：西田幾多郎の1945年の日記から考える」[市民向け公開シンポジウム：大震災と復興の行方](香港公開大学、2021年3月6～7日、ウェビナー)
- ・“Nishida Kitarō’s Ethics and Classical Confucianism: With a Focus on the Book of Odes.”(The 5th Annual Meeting of International Association of Japanese Philosophy, Nanzenji and Kyoto University, 13-15 March 2021, Webinar)

